

大学番号 私立161

注3

設置年度 平成
計画の区分： 学部設置
注1

30年度

届出

岐阜医療科学大学 看護学部 看護学科 (必要がある場合) ○○専攻
注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人神野学園
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	IR室
職名・氏名	野末明宏
電話番号	0575-22-9401
(夜間)	0575-22-9401
e-mail	nozue@u-gifu-ms.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「○○大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) ○○大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「○○大学」
・学部の設置の場合：「○○大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「○○大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「○○短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「○○大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「○○大学大学院 ○○研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	12
6. 附帯事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	27

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人神野学園

(2) 大学名

岐阜医療科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

(看護学部：可児キャンパス)

〒509-0293

岐阜県可児市虹ヶ丘4-3-3

(関キャンパス)

〒501-3892

岐阜県関市市平賀字長峰795-1

(本部の位置)

〒461-0001

愛知県名古屋市中区泉1丁目23番37号

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヤマダ ヒロユキ) 山田 弘幸 (平成26年4月1日)		
学長	(マノ タダアキ) 間野 忠明 (平成18年4月1日)	(ヤマカ カズキヨ) 山岡 一清 (平成31年4月1日)	前学長退任のため(平成31年3月31日)(元)
学部長	(ミナイ ジュンコ) 葉袋 淳子 (平成30年4月1日)		
学科長等	(スギウラ ヒロコ) 杉浦 浩子 (平成30年4月1日)		

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	4年	100人	年次 0人	400人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	-	-	100	-	100	-	100	-	100	-	1.06倍	-1倍	
志願者数	(-)	(-)	597	(-)	743	(-)	527	(-)	774	(-)			
受験者数	(-)	(-)	589	(-)	718	(-)	519	(-)	763	(-)			
合格者数	(-)	(-)	385	(-)	322	(-)	291	(-)	327	(-)			
B 入学者数	(-)	(-)	123	(-)	97	(-)	104	(-)	103	(-)			
入学定員超過率 B/A	-		1.23		0.97		1.04		1.03				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次			123 [-] (-)	- [-] (-)	97 [-] (-)	- [-] (-)	104 [-] (-)	- [-] (-)	104 [-] (1)	- [-] (-)	
2年次					123 [-] (-)	- [-] (-)	104 [-] (7)	- [-] (-)	107 [-] (5)	- [-] (-)	
3年次							116 [-] (0)	- [-] (-)	101 [-] (4)	- [-] (-)	
4年次									112 [-] (0)	- [-] (-)	
計	- [-] (-)		123 [-] (-)		220 [-] (-)		324 [-] (7)		424 [-] (10)		

・ 令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	123 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	220 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
令和2年度	324 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
令和3年度	424 人	1 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	1 人	— 人	留年等学力不足
			令和元年度	0 人	— 人	
			令和2年度	0 人	— 人	
			令和3年度	0 人	— 人	
合 計		1 人		1 人	— 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{123} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{220} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{324} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{424} = \boxed{0.23} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

【平成30年度】

Table with columns: 科目区分, 授業科目名, 配当年度, 単位数 (必修, 選択, 自由), 専任教員等の配置 (教授, 准教授, 講師, 助教, 助手), 兼任・兼務. Includes sub-sections for 基礎科目, 専門基礎科目, and 専門科目.

※重要条件として、必修科目116単位以上（基礎分90単位・専門基礎分26単位・専門科目78単位以上）、選択科目8単位以上（基礎分9単位以上）、計124単位以上修得すること。（履修科目の上限：50単位（年間））

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。
・ 認可時又は届出時は設置届出書の様式第2巻(その2の1)に基づいて作成してください。
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任・兼務教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。
・ 履修希望がないため未開講となった科目については科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
・ 1ページ目は認可時又は届出年度2つの表を記入してください。
・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。
・ (2つの表が1ページに表されるようにしてください。)
・ 専門科目の場合は、「医職、食糧、保健又は福祉に関する履修科目」による授業科目には「【医】」、「【福】」、「【健】」を、保健医療系による履修科目には「【健】」を、保健医療系以外の履修科目には「【健】」を授業科目名の右側に記入してください。

(1) ①-②授業科目に関する変更内容

【平成30年度】
 ・教育体制充実のため、専任教員(教授1名増員及び助手から助教1名昇任の理由により、「基礎セミナー」の専任教員等の配属を「教授8」から「教授9」、「助教8」から「助教9」に増員し、また助手の配属を昇任及び1名退職により「5」から「3」に減員。
 ・教育体制充実の理由により、「チーム医療論」の兼任・兼任教員の配属を「4」から「7」に変更。
 ・教育体制充実のため、「看護学」の兼任・兼任教員の配属を「教授1」から「教授1」に変更。「基礎看護学」(共通基本技術)、「基礎看護学方法Ⅱ」(日常生活援助)、基礎看護学方法Ⅲ(看護過程展開技術)、基礎看護学方法Ⅳ(診断・治療に伴う援助技術)、「看護学実習Ⅰ」、「統合看護実習」、「卒業研究」の専任教員の配属を1名増員。
 ・助手1名退職の理由により、「基礎看護学方法Ⅰ」(共通基本技術)、「基礎看護学方法Ⅱ」(日常生活援助技術)、「基礎看護学方法Ⅲ」(看護過程展開技術)、「基礎看護学方法Ⅳ」(診断・治療に伴う援助技術)、「基礎看護学実習Ⅰ」、「基礎看護学実習Ⅱ」、の助手の配属を1名減員。
 ・教育体制充実のため、「助教11名昇任の理由により、「成人看護学方法Ⅰ」(急性期)、「成人看護学方法Ⅱ」(慢性期)、「成人看護学実習Ⅰ」、「統合看護実習」、「卒業研究」の助教の配属を1名増員し助手を1名減員。
 (「卒業研究」にあつては昇任及び退職の理由により助手の配属を「5」から「3」に変更)

【令和元年度】
 ・教育体制充実のため、「基礎セミナー」の専任教員の配属を「教授」から「教授2」、「准教授0」から「講師10」から「講師2」、「助教8」から「助教2」、「助手5」から「助手」に変更。
 ・担当昇任に依る教育体制充実のため、「医学概論」の専任教員の配属を「教授」から「教授1」、「兼任・兼任教員の配属を「兼2」から「兼1」に変更。
 ・教育体制充実のため、「疾病・治療Ⅱ」(成人・老年Ⅱ)の兼任・兼任教員の配属を「兼1」から「兼2」に変更。
 ・担当昇任に依る教育体制充実のため、「看護学概論Ⅰ」の専任教員の配属を「講師0」から「講師1」に変更。
 ・担当昇任に依る教育体制充実のため、「看護学概論Ⅱ」の専任教員の配属を「教授0」から「教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教2」から「助教2」に変更。
 ・教育体制充実のため、「基礎看護学方法Ⅰ」(共通基本技術)の専任教員の配属を、H30年度に「教授1」から「教授2」、令和元年度に「教授2」から「教授1」、また「講師1」から「講師0」に変更。
 ・教育体制充実のため、「基礎看護学方法Ⅱ」(日常生活援助技術)の専任教員の配属を、「講師1」から「講師2」に変更。
 ・教育体制充実のため、「基礎看護学方法Ⅲ」(看護過程展開技術)の専任教員の配属を、H30年度に「教授1」から「教授2」、令和元年度に「教授2」から「教授1」、また「講師1」から「講師0」に変更。
 ・教育体制充実のため、「基礎看護学方法Ⅳ」(診断・治療に伴う援助技術)の専任教員の配属を、「講師1」から「講師3」に変更。
 ・教育体制充実のため、「看護学実習Ⅰ」の専任教員の配属を、H30年度に「教授1」から「教授2」、「講師1」から「講師2」、「助教3」から「助教2」に変更。
 ・新規昇任及び教育体制充実のため、「成人看護学方法Ⅰ」(急性期)の専任教員の配属を「教授1」から「教授2」、「講師1」から「講師2」、「助教3」から「助教2」に変更。
 ・新規昇任及び教育体制充実のため、「成人看護学実習Ⅰ」の専任教員の配属を「教授1」から「教授2」、「講師1」から「講師2」、「助教3」から「助教2」に変更。
 ・新規昇任及び教育体制充実のため、「成人看護学実習Ⅱ」の専任教員の配属を「教授1」から「教授2」、「講師1」から「講師2」、「助教3」から「助教2」に変更。
 ・昇任及び教育体制充実のため、「老年看護学方法Ⅰ」の専任教員の配属を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師2」、「助手1」から「助手0」に変更。
 ・昇任及び教育体制充実のため、「老年看護学方法Ⅱ」の専任教員の配属を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師2」、「助手1」から「助手0」に変更。
 ・昇任及び教育体制充実のため、「老年看護学実習Ⅰ」の専任教員の配属を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師2」、「助手1」から「助手0」に変更。
 ・教育体制充実のため、「公衆衛生看護学概論」の専任教員の配属を「准教授0」から「准教授1」に変更。
 ・教育体制充実のため、「公衆衛生看護学活動Ⅰ」(地区活動)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「講師2」から「講師1」に変更。
 ・昇任及び教育体制充実のため、「公衆衛生看護学活動Ⅱ」(産産保護)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「講師2」から「講師1」に変更。
 ・昇任及び教育体制充実のため、「公衆衛生看護学活動Ⅲ」(学校保健)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「講師2」から「講師1」に変更。
 ・昇任及び教育体制充実のため、「公衆衛生看護学活動Ⅳ」(在宅看護)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「講師2」から「講師1」に変更。
 ・昇任及び教育体制充実のため、「公衆衛生看護学活動Ⅴ」(地域活動)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「講師2」から「講師1」に変更。
 ・昇任及び教育体制充実のため、「公衆衛生看護学活動Ⅵ」(産産保護)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「講師2」から「講師1」に変更。
 ・昇任及び教育体制充実のため、「公衆衛生看護学活動Ⅶ」(学校保健)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「講師2」から「講師1」に変更。
 ・昇任及び教育体制充実のため、「公衆衛生看護学活動Ⅷ」(在宅看護)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「講師2」から「講師1」に変更。
 ・昇任及び教育体制充実のため、「公衆衛生看護学活動Ⅸ」(地域活動)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「講師2」から「講師1」に変更。
 ・教育体制充実のため、「統合看護実習」の専任教員の配属を「教授」から「教授2」、「講師」から「講師6」、平成30年度に「助教6」から「助教7」及び「助手3」から「助手2」、令和元年度に「助教7」から「助教5」及び「助手2」から「助手1」に変更。
 ・教育体制充実のため、「家族援助論」の専任教員の配属を「准教授0」から「准教授1」に変更。
 ・教育体制充実のため、「卒業研究」の専任教員の配属を平成30年度に「教授9」から「教授10」、「助教8」から「助教9」、「助手5」から「助手」、令和元年度に「教授10」から「教授9」、「准教授」を「准教授5」、「講師10」を「講師9」、「助教8」から「助教8」、「助手3」から「助手2」に変更。

【令和2年度】
 ・教員昇任及び教育体制見直しのため、「アカデミック技法」の専任教員の配属を「准教授1」から「准教授0」、「講師2」の配属を「講師3」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「基礎セミナー」の専任教員の配属を「講師10」から「講師4」、「助手5」から「助手0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「英語Ⅰ」(初級)の兼任・兼任教員の配属を「兼3」から「兼2」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「食生活論」の専任教員の配属を「教授0」から「教授1」、「准教授0」から「准教授2」、「講師0」から「講師1」とし、兼任・兼任教員の配属を「兼1」から「兼0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「健康増進学Ⅰ」(共通基本技術)の専任教員の配属を「兼2」から「兼6」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「微生物学」の兼任・兼任教員の配属を「兼2」から「兼1」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「疾病・治療Ⅱ」(小児)の兼任・兼任教員の配属を「兼2」から「兼1」に変更。
 ・教員昇任・昇任に依る教育体制見直しのため、「基礎看護学方法Ⅱ」(日常生活援助技術)の専任教員の配属を、「教授0」から「教授2」、「講師1」から「講師2」、「助手2」から「助手0」に変更。
 ・教員昇任・昇任に依る教育体制見直しのため、「基礎看護学方法Ⅲ」(看護過程展開技術)の専任教員の配属を、「講師0」から「講師2」、「助手2」から「助手0」に変更。
 ・教員昇任・昇任に依る教育体制見直しのため、「基礎看護学方法Ⅳ」(診断・治療に伴う援助技術)の専任教員の配属を、「教授0」から「教授2」、「講師1」から「講師2」、「助手2」から「助手0」に変更。
 ・教員昇任・昇任に依る教育体制見直しのため、「看護学実習Ⅰ」の専任教員の配属を「教授0」から「教授2」、「講師1」から「講師2」、「助手2」から「助手0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「母性看護学概論」の助手の配属を、「助手1」から「助手0」に変更。
 ・昇任及び教育体制見直しのため、「母性看護学方法」の助手の配属を、「助手1」から「助手0」、兼任・兼任教員の配属を「兼2」から「兼0」に変更。
 ・昇任及び教育体制見直しのため、「母性看護学実習」の助手の配属を、「助手1」から「助手0」に変更。
 ・教員昇任及び教育体制見直しのため、「小児看護学概論」の専任教員の配属を、「准教授2」から「准教授1」、「講師0」を「講師1」に変更。
 ・教員昇任及び教育体制見直しのため、「小児看護学方法Ⅰ」の専任教員の配属を、「准教授2」から「准教授1」、兼任・兼任教員の配属を「兼1」から「兼0」に変更。
 ・教員昇任及び教育体制見直しのため、「小児看護学実習Ⅰ」の専任教員の配属を、「准教授2」から「准教授1」、兼任・兼任教員の配属を「兼1」から「兼0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「成人看護学方法Ⅰ」(急性期)の助手の配属を「助手1」から「助手0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「成人看護学方法Ⅱ」(慢性期)の助手の配属を「助手1」から「助手0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「成人看護学実習Ⅰ」の助手の配属を「助手1」から「助手0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学概論」の兼任・兼任教員の配属を「兼1」から「兼0」に変更。
 ・昇任及び教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅰ」(地区活動)の専任教員の配属を「准教授0」から「准教授2」、「講師2」から「講師0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅱ」(産産保護)の兼任・兼任教員の配属を「兼3」から「兼2」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅲ」(学校保健)の兼任・兼任教員の配属を「兼1」から「兼0」に変更。
 ・昇任及び教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅳ」(在宅看護)の専任教員の配属を「教授0」から「教授1」、「准教授0」から「准教授1」、「講師2」から「講師0」、「助手0」から「助手1」に変更。
 ・採用及び教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅴ」(地域活動)の専任教員の配属を「助教0」から「助教1」、「助手0」から「助手1」に変更。
 ・昇任・採用及び教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅵ」(産産保護)の専任教員の配属を「准教授0」から「准教授2」、「講師2」から「講師0」、「助手0」から「助手1」に変更。
 ・昇任・採用及び教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅶ」(学校保健)の専任教員の配属を「准教授0」から「准教授2」、「講師2」から「講師0」、「助手0」から「助手1」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「医療データ分析論」の兼任・兼任教員の配属を「兼6」から「兼7」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「在宅看護学Ⅰ」の専任教員の配属を「助手0」から「助手1」を追加、兼任・兼任教員を「兼2」から「兼0」に変更。
 ・採用及び教育体制見直しのため、「在宅看護学Ⅱ」の専任教員の配属を「助手0」から「助手1」を追加。
 ・教育体制見直しのため、「統合看護実習」の専任教員の配属を「教授0」から「教授1」、「講師0」から「講師1」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「家族援助論」の専任教員の配属を「准教授0」から「准教授1」に変更。
 ・教育体制見直しのため「卒業研究」の専任教員の配属を「講師10」から「講師8」、「助教8」から「助教9」、「助手5」から「助手2」に変更。

- (注) ・ ① ② 授業科目目録に記入された各年度における変更内容 (配当年度の変更、専任教員等の配属の変更、授業科目目録の変更、新科目の追加など)を黒字書きで記入してください。変更がない年度は「特になし」と記入してください。
 ・ 変更内容は、授業科目目録の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開講であれば平成28年度)の表は裏書きを削除してください。

【令和3年度】
 ・教員体制見直しのため、「基礎セミナー」の専任教員の配属を「教授2」から「教授1」、「講師4」から「講師0」、「助教2」から「助教0」に変更。
 ・教員体制見直しのため、「疾病・治療Ⅱ」(成人・老年Ⅱ)の兼任・兼任教員の配属を「兼2」から「兼3」に変更。
 ・専任教員昇任及び教育体制見直しのため、「看護学概論Ⅰ」の専任教員の配属を「教授2」から「教授0」、「講師0」から「講師1」に変更。
 ・専任教員昇任及び教育体制見直しのため、「看護学概論Ⅱ」の専任教員の配属を「教授1」から「教授1」、「講師0」から「講師0」に変更。
 ・専任教員昇任及び教育体制見直しのため、「基礎看護学方法Ⅰ」(共通基本技術)の専任教員の配属を「教授2」から「教授1」に変更。
 ・専任教員昇任及び教育体制見直しのため、「基礎看護学方法Ⅱ」(日常生活援助技術)の専任教員の配属を「教授2」から「教授1」、「助教1」から「助教2」に変更。
 ・専任教員昇任及び教育体制見直しのため、「基礎看護学方法Ⅲ」(看護過程展開技術)の専任教員の配属を「講師2」から「講師1」、「助教1」から「助教2」に変更。
 ・専任教員昇任及び教育体制見直しのため、「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員の配属を「教授2」から「教授1」、「助教1」から「助教2」に変更。
 ・専任教員昇任及び教育体制見直しのため、「成人看護学方法Ⅰ」(急性期)の専任教員の配属を「教授1」から「教授2」、「助教1」から「助教2」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「母性看護学方法」の専任教員の配属を「助教1」から「助教2」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「母性看護学実習」の専任教員の配属を「助教1」から「助教2」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「成人看護学方法Ⅱ」(慢性期)の専任教員の配属を「講師2」から「講師1」、「助教3」から「助教2」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「成人看護学実習Ⅰ」の専任教員の配属を「講師2」から「講師1」、「助教3」から「助教2」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「成人看護学実習Ⅱ」の専任教員の配属を「講師2」から「講師1」、「助教3」から「助教2」に変更。
 ・専任教員昇任のため、「精神看護学概論」の専任教員の配属を「講師1」から「講師2」、「助教1」から「助教0」に変更。
 ・専任教員昇任のため、「精神看護学方法」の専任教員の配属を「講師1」から「講師2」、「助教1」から「助教0」に変更。
 ・専任教員昇任のため、「精神看護学実習」の専任教員の配属を「講師1」から「講師2」、「助教1」から「助教0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学概論」の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授2」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅰ」・Ⅱ「公衆衛生看護学活動Ⅲ」(学校保健)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅳ」(在宅看護)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅴ」(地域活動)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅵ」(産産保護)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅶ」(学校保健)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅷ」(在宅看護)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅸ」(地域活動)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅹ」(産産保護)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅺ」(学校保健)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅻ」(在宅看護)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「公衆衛生看護学活動Ⅼ」(地域活動)の専任教員の配属を「教授1」から「教授0」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「統合看護実習」の専任教員の配属を「教授2」から「教授1」、「講師6」から「講師5」、「助教6」から「助教5」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「家族援助論」の専任教員の配属を「准教授0」から「准教授1」に変更。
 ・教育体制見直しのため、「卒業研究」の専任教員の配属を「講師10」から「講師9」、「助教8」から「助教7」、「助手5」から「助手2」に変更。

- (注) ・ ① ② 授業科目目録に記入された各年度における変更内容 (配当年度の変更、専任教員等の配属の変更、授業科目目録の変更、新科目の追加など)を黒字書きで記入してください。変更がない年度は「特になし」と記入してください。
 ・ 変更内容は、授業科目目録の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開講であれば平成29年度)の表は裏書きを削除してください。

(2) 授業科目数

	設置時の計画			変更状況			備考
	必修	選択	自由	必修	選択	自由	
74	40	0	114	74	40	0	114
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、① ② 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：科目数の場合、△)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{114} = \boxed{0\%}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	65,616.54㎡	— ㎡	— ㎡	65,616.54㎡				
	運動場用地	15,564.00㎡	— ㎡	— ㎡	15,564.00㎡				
	小 計	81,180.54㎡	— ㎡	— ㎡	81,180.54㎡				
	そ の 他	146,371.06㎡	— ㎡	— ㎡	146,371.06㎡				
	合 計	227,551.60㎡	— ㎡	— ㎡	227,551.60㎡				
(2) 校 舎	専 用	32,514.60㎡	— ㎡	— ㎡	32,514.60㎡				
	(32,514.60㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(32,514.60㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	36室	16室	54室	4室 (補助職員一人)	1室 (補助職員一人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	看護学部 看護学科			24 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	完成年度の図書・学術 雑誌数増加は見直しに よる(2) 学術雑誌・電子ジャー ナルの減少、視聴覚資 料の増加は必要性の見 直しによる(3)	
	看護学部	14,600 [1,009] 18,566 [1,444] (17,847 [1,335])	73 [15] 80 [29] 68 [11]	12 [12] 19 [19] 11 [11]	562 706 715 (708)	1,364 (1,364)	238 (238)		
	計	14,600 [1,009] 18,566 [1,444] (17,847 [1,335])	73 [15] 80 [29] 68 [11]	12 [12] 19 [19] 11 [11]	562 706 715 (708)	1,364 (1,364)	238 (238)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	726.73㎡		132		80,000				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	1,457.67㎡		屋外バスケットコート1面		体育室2部屋				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	設備購入費の減少は、 必要設備の見直しに よる(30) 設備購入費の増加は、 必要設備の見直しに よる(元) 設備購入費の減少は、 必要設備の見直しに よる(3)	
		教員1人当り研究費等	600千円	600千円	図書購入費	12,840 12,994千円	15,800 16,065千円		14,800千円
		共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	8,364 3,796千円	36,000 37,095千円		10,500 3,707千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,650千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、補助活動収入、寄付金、雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称						岐阜医療科学大学		学生募集停止 学科数	1	平均入学定員超 過率1.3倍以上の 学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和3年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地		
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度		
看護学部						1.06	1.03	平成30年度	平成30年度	岐阜県可児市 虹ヶ丘4-3-3	平成30年4月学生募 集停止	
看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.06	1.03	平成30年度	平成30年度	同上		
保健科学部						1.08	1.14	-	平成18年度	岐阜県関門市平 賀字長峰795-1		
臨床検査学科	4	90	-	360	学士 (保健学)	1.02	1.03	-	平成18年度	同上		
放射線技術学科	4	90	-	360	学士 (保健学)	1.14	1.25	-	平成18年度	同上		
看護学科	4	-	-	0	学士 (看護学)	-	-	-	平成18年度	同上		
薬学部						0.78	0.78					
薬学科	6	100	-	200	学士 (薬学)	0.78	0.78	-	令和2年度	岐阜県可児市 虹ヶ丘4-3-3		
大学全体	4	380	-	1,320	-	1.04	1.01	-	-	-		
保健医療学研究科										岐阜県関門市平 賀字長峰795-1		
保健医療学専攻	2	9	-	18	修士(保健 医療学)	0.66	0.77	-	平成28年度	同上		
大学院全体	2	9	-	18		0.66	0.77	-	-	-		
大学 の 名 称						中日本自動車短期大学		学生募集停止 学科数	0	平均入学定員超 過率1.3倍以上の 学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和3年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地		
	年	人	年次 人	人		倍	倍					
自動車工学科	2	200	-	400	短期大学士 (自動車工学)	1.14	1.24	-	昭和42年度	岐阜県加茂郡坂祝 町深萱1301		
モーター・エンジン・エアリ ンク学科	3	30	-	90	短期大学士 (自動車工学)	0.99	1.13	-	平成21年度	同上		
大学全体	-	230	-	490	-	-	-	-	-	-		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	葉袋 淳子 (54) <平成30年4月>	チーム医療論 看護教育学 在宅看護論 在宅看護方法 在宅看護実習 統合看護実習 統合看護実習 家族援助論 チーム医療演習 卒業研究	専	教授	葉袋 淳子 (55) <平成30年4月>	チーム医療論 看護教育学 在宅看護論 在宅看護方法 在宅看護実習 統合看護実習 統合看護実習 家族援助論 チーム医療演習 卒業研究	専	教授	葉袋 淳子 (56) <平成30年4月>	チーム医療論 看護教育学 在宅看護論 在宅看護方法 在宅看護実習 統合看護実習 統合看護実習 家族援助論 チーム医療演習 卒業研究	専	教授	葉袋 淳子 (57) <平成30年4月>	チーム医療論 看護教育学 在宅看護論 在宅看護方法 在宅看護実習 統合看護実習 統合看護実習 家族援助論 チーム医療演習 卒業研究
専	教授	内野 聖子 (47) <平成30年4月>	基礎セミナー 老年看護学概論 老年看護学方法 老年看護学実習 統合看護実習 統合看護実習 卒業研究	専	教授	内野 聖子 (47) <平成30年4月>	基礎セミナー 老年看護学概論 老年看護学方法 老年看護学実習 統合看護実習 統合看護実習 卒業研究	専	教授	内野 聖子 (48) <平成30年4月>	老年看護学概論 老年看護学方法 老年看護学実習 統合看護実習 卒業研究	専	教授	内野 聖子 (49) <平成30年4月>	老年看護学概論 老年看護学方法 老年看護学実習 統合看護実習 卒業研究
専	教授	杉浦 浩子 (51) <平成30年4月>	基礎セミナー 精神看護学概論 精神看護学方法 精神看護学実習 統合看護実習 統合看護実習 看護理論 チーム医療演習 卒業研究	専	教授	杉浦 浩子 (51) <平成30年4月>	基礎セミナー 精神看護学概論 精神看護学方法 精神看護学実習 統合看護実習 統合看護実習 看護理論 チーム医療演習 卒業研究	専	教授	杉浦 浩子 (52) <平成30年4月>	精神看護学概論 精神看護学方法 精神看護学実習 統合看護実習 看護理論 チーム医療演習 卒業研究	専	教授	杉浦 浩子 (53) <平成30年4月>	精神看護学概論 精神看護学方法 精神看護学実習 統合看護実習 統合看護実習 看護理論 チーム医療演習 卒業研究
専	教授	成 順月 (53) <平成30年4月>	基礎セミナー 保健学Ⅱ(疫学) 保健統計 臨床病理学総論 統合看護実習 卒業研究	専	教授	成 順月 (53) <平成30年4月>	基礎セミナー 保健学Ⅱ(疫学) 保健統計 臨床病理学総論 統合看護実習 卒業研究	専	教授	成 順月 (54) <平成30年4月>	アカデミック技法 基礎セミナー 保健学Ⅱ(疫学) 保健統計 臨床病理学総論 卒業研究	専	教授	成 順月 (55) <平成30年4月>	アカデミック技法 基礎セミナー 保健学Ⅱ(疫学) 保健統計 臨床病理学総論 卒業研究
専	教授	高田 規久子 (62) <平成30年4月>	基礎セミナー 医療安全管理学 成人看護学概論 成人看護学方法Ⅰ (急性期) 成人看護学方法Ⅱ (慢性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護実習 卒業研究	専	教授	高田 規久子 (62) <平成30年4月>	基礎セミナー 医療安全管理学 成人看護学概論 成人看護学方法Ⅰ (急性期) 成人看護学方法Ⅱ (慢性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護実習 卒業研究	専	教授	高田 規久子 (63) <平成30年4月>	医療安全管理学 成人看護学方法Ⅰ (急性期) 成人看護学方法Ⅱ (慢性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 卒業研究	専	教授	高田 規久子 (64) <平成30年4月>	看護看護学方法Ⅰ (共通基本技術) 看護看護学方法Ⅱ (日常生活援助技術) 看護看護学方法Ⅲ (看護過程展開技術) 看護看護学実習Ⅰ (急性・慢性に伴う援助技術) 看護看護学実習Ⅱ 医療安全管理学 基礎セミナー 卒業研究
専	教授	橋本 廣子 (67) <平成30年4月>	基礎セミナー 保健医療福祉制度論Ⅰ 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学実習Ⅰ (地区活動) 公衆衛生看護学方法Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ (地区活動) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (産業保健) 家族援助論 卒業研究	専	教授	橋本 廣子 (67) <平成30年4月>	基礎セミナー 保健医療福祉制度論Ⅰ 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学実習Ⅰ (地区活動) 公衆衛生看護学方法Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ (地区活動) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (産業保健) 家族援助論 卒業研究	専	教授	橋本 廣子 (68) <平成30年4月>	保健医療福祉制度論Ⅱ 公衆衛生看護学概論 家族援助論	専	教授	橋本 廣子 (69) <平成30年4月>	保健医療福祉制度論Ⅱ 公衆衛生看護学概論 家族援助論
専	教授	藤井 洋子 (55) <平成30年4月>	基礎セミナー 看護学概論Ⅰ 看護学概論Ⅱ 基礎看護学方法Ⅰ (共通基本技術) 基礎看護学方法Ⅱ (看護過程展開技術) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護教育学 統合看護実習 卒業研究	専	教授	藤井 洋子 (55) <平成30年4月>	基礎セミナー 看護学概論Ⅰ 看護学概論Ⅱ 基礎看護学方法Ⅰ (共通基本技術) 基礎看護学方法Ⅱ (看護過程展開技術) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護教育学 統合看護実習 卒業研究								
専	教授	船戸 恵子 (62) <平成30年4月>	基礎セミナー 看護教育学 在宅看護論 在宅看護方法 在宅看護実習 統合看護実習 家族援助論 チーム医療演習 卒業研究	専	教授	船戸 恵子 (62) <平成30年4月>	基礎セミナー 看護教育学 在宅看護論 在宅看護方法 在宅看護実習 統合看護実習 家族援助論 チーム医療演習 卒業研究	専	教授	船戸 恵子 (63) <平成30年4月>	看護教育学 在宅看護論 在宅看護方法 在宅看護実習 統合看護実習 家族援助論 チーム医療演習 卒業研究	専	教授	船戸 恵子 (64) <平成30年4月>	看護教育学 在宅看護論 在宅看護方法 在宅看護実習 統合看護実習 家族援助論 チーム医療演習 卒業研究
専	教授	三谷 智子 (59) <平成30年4月>	アカデミック技法 基礎セミナー 保健学Ⅰ(公衆衛生) 統合看護実習 災害看護論 国際看護論 卒業研究	専	教授	三谷 智子 (59) <平成30年4月>	アカデミック技法 基礎セミナー 保健学Ⅰ(公衆衛生) 統合看護実習 災害看護論 国際看護論 卒業研究	専	教授	三谷 智子 (60) <平成30年4月>	保健学Ⅰ(公衆衛生) 統合看護実習 災害看護論 国際看護論 卒業研究	専	教授	三谷 智子 (61) <平成30年4月>	保健学Ⅰ(公衆衛生) 統合看護実習 災害看護論 国際看護論 食生活論 卒業研究

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
		山本 洋子 (50) <平成30年4月>	基礎セミナー 看護学概論Ⅰ 看護学概論Ⅱ 看護学方法Ⅰ (共通基本技術) 看護学方法Ⅱ (日常生活援助技術) 看護学方法Ⅲ (看護過程援助技術) 看護学方法Ⅳ (診断・治療に伴う援助技術) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護演習 卒業研究			山本 洋子 (52) <平成30年4月>	看護学概論Ⅰ 看護学概論Ⅱ 看護学方法Ⅰ (共通基本技術) 看護学方法Ⅱ (日常生活援助技術) 看護学方法Ⅲ (看護過程援助技術) 看護学方法Ⅳ (診断・治療に伴う援助技術) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護演習 卒業研究			山本 洋子 (52) <平成30年4月>	看護学概論Ⅰ 看護学概論Ⅱ 看護学方法Ⅰ (共通基本技術) 看護学方法Ⅱ (日常生活援助技術) 看護学方法Ⅲ (看護過程援助技術) 看護学方法Ⅳ (診断・治療に伴う援助技術) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護演習 卒業研究			山本 洋子 (52) <平成30年4月>	看護学概論Ⅰ 看護学概論Ⅱ 看護学方法Ⅰ (共通基本技術) 看護学方法Ⅱ (日常生活援助技術) 看護学方法Ⅲ (看護過程援助技術) 看護学方法Ⅳ (診断・治療に伴う援助技術) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護演習 卒業研究
		藤田 智恵子 (53) <平成31年4月>	成人看護学概論 成人看護学方法Ⅱ (慢性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護演習 卒業研究			藤田 智恵子 (54) <平成31年4月>	成人看護学概論 成人看護学方法Ⅱ (慢性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護演習 卒業研究			藤田 智恵子 (54) <平成31年4月>	成人看護学概論 成人看護学方法Ⅱ (慢性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護演習 卒業研究			藤田 智恵子 (56) <平成31年4月>	成人看護学概論 成人看護学方法Ⅱ (慢性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護演習 卒業研究 フィジカルアセスメント論
専任	准教授	鍵小野 美和 (45) <平成30年4月>	基礎セミナー 小児看護学概論 小児看護学方法 小児看護学実習 統合看護演習 統合看護実習 卒業研究	専任	准教授	鍵小野 美和 (45) <平成30年4月>	基礎セミナー 小児看護学概論 小児看護学方法 小児看護学実習 統合看護演習 統合看護実習 卒業研究	専任	准教授	鍵小野 美和 (46) <平成30年4月>	アカデミック技法 小児看護学概論 小児看護学方法 小児看護学実習 統合看護演習 統合看護実習 卒業研究			鍵小野 美和 (45) <平成30年4月>	基礎セミナー 小児看護学概論 小児看護学方法 小児看護学実習 統合看護演習 統合看護実習 卒業研究
専任	准教授	原 ひろみ (51) <平成30年4月>	基礎セミナー 看護学概論 小児看護学方法 小児看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅲ (学校保健) 統合看護実習 卒業研究	専任	准教授	原 ひろみ (51) <平成30年4月>	基礎セミナー 看護学概論 小児看護学方法 小児看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅲ (学校保健) 統合看護実習 卒業研究	専任	准教授	原 ひろみ (52) <平成30年4月>	小児看護学概論 小児看護学方法 小児看護学実習 小児看護学実習Ⅲ (学校保健) 統合看護実習 卒業研究			原 ひろみ (54) <平成30年4月>	小児看護学概論 小児看護学方法 小児看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅲ (学校保健) 統合看護実習 卒業研究
専任	准教授	水谷 さおり (50) <平成30年4月>	アカデミック技法 基礎セミナー 母性看護学概論 母性看護学方法 母性看護学実習 トリートメントケアセミナー 統合看護演習 統合看護実習 チーム医療演習 卒業研究	専任	准教授	水谷 さおり (50) <平成30年4月>	アカデミック技法 基礎セミナー 母性看護学概論 母性看護学方法 母性看護学実習 トリートメントケアセミナー 統合看護演習 統合看護実習 チーム医療演習 卒業研究	専任	准教授	水谷 さおり (52) <平成30年4月>	母性看護学概論 母性看護学方法 母性看護学実習 トリートメントケアセミナー 統合看護演習 統合看護実習 家族援助概論 チーム医療演習 卒業研究			水谷 さおり (53) <平成30年4月>	母性看護学概論 母性看護学方法 母性看護学実習 トリートメントケアセミナー 統合看護演習 統合看護実習 家族援助概論 チーム医療演習 卒業研究
専任	講師	上平 公子 (44) <平成30年4月>	基礎セミナー 公衆衛生看護活動論Ⅰ (地区活動) 公衆衛生看護方法論Ⅰ 公衆衛生看護方法論Ⅱ 公衆衛生看護診断演習 公衆衛生看護学実習Ⅰ (地区活動) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (産業保健) トリートメントケアセミナー 卒業研究	専任	講師	上平 公子 (44) <平成30年4月>	基礎セミナー 公衆衛生看護活動論Ⅰ (地区活動) 公衆衛生看護方法論Ⅰ 公衆衛生看護方法論Ⅱ 公衆衛生看護診断演習 公衆衛生看護学実習Ⅰ (地区活動) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (産業保健) トリートメントケアセミナー 卒業研究	専任	准教授	上平 公子 (45) <平成30年4月>	公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護活動論Ⅰ (地区活動) 公衆衛生看護方法論Ⅰ 公衆衛生看護方法論Ⅱ 公衆衛生看護診断演習 公衆衛生看護学実習Ⅰ (地区活動) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (産業保健) トリートメントケアセミナー 統合看護演習 卒業研究			上平 公子 (47) <平成30年4月>	公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護活動論Ⅰ (地区活動) 公衆衛生看護方法論Ⅰ 公衆衛生看護方法論Ⅱ 公衆衛生看護診断演習 公衆衛生看護学実習Ⅰ (地区活動) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (産業保健) トリートメントケアセミナー 統合看護演習 卒業研究
専任	講師	川上 祐子 (51) <平成30年4月>	基礎セミナー トリートメントケアセミナー 在宅看護論 在宅看護方法 在宅看護実習 統合看護実習 卒業研究	専任	講師	川上 祐子 (51) <平成30年4月>	基礎セミナー トリートメントケアセミナー 在宅看護論 在宅看護方法 在宅看護実習 統合看護実習 卒業研究								
専任	講師	小平 由美子 (45) <平成30年4月>	基礎セミナー 小児看護学方法 小児看護学実習 統合看護実習 卒業研究	専任	講師	小平 由美子 (45) <平成30年4月>	基礎セミナー 小児看護学方法 小児看護学実習 統合看護実習 卒業研究								
専任	講師	田中 里美 (51) <平成30年4月>	アカデミック技法 基礎セミナー 成人看護学概論 成人看護学方法Ⅰ (急性期) 成人看護学方法Ⅱ (慢性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護演習 統合看護実習 看護教育学 卒業研究	専任	講師	田中 里美 (51) <平成30年4月>	アカデミック技法 基礎セミナー 成人看護学概論 成人看護学方法Ⅰ (急性期) 成人看護学方法Ⅱ (慢性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護演習 統合看護実習 看護教育学 卒業研究	専任	講師	田中 里美 (52) <平成30年4月>	基礎セミナー 看護学概論Ⅰ 看護学概論Ⅱ 看護学方法Ⅰ (共通基本技術) 看護学方法Ⅱ (日常生活援助技術) 看護学方法Ⅲ (看護過程援助技術) 看護学方法Ⅳ (診断・治療に伴う援助技術) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 看護教育学 卒業研究			田中 里美 (53) <平成30年4月>	基礎セミナー アカデミック技法 成人看護学方法Ⅰ (急性期) 成人看護学方法Ⅱ (慢性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 看護教育学 卒業研究
専任	講師	田中 里美 (51) <平成30年4月>	アカデミック技法 基礎セミナー 成人看護学概論 成人看護学方法Ⅰ (急性期) 成人看護学方法Ⅱ (慢性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護演習 統合看護実習 看護教育学 卒業研究	専任	講師	田中 里美 (51) <平成30年4月>	アカデミック技法 基礎セミナー 成人看護学概論 成人看護学方法Ⅰ (急性期) 成人看護学方法Ⅱ (慢性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合看護演習 統合看護実習 看護教育学 卒業研究	専任	講師	田中 里美 (54) <平成30年4月>	アカデミック技法 看護学概論Ⅰ 看護学概論Ⅱ 看護学方法Ⅲ (看護過程援助技術) 看護教育学 卒業研究			田中 里美 (54) <平成30年4月>	アカデミック技法 看護学概論Ⅰ 看護学概論Ⅱ 看護学方法Ⅲ (看護過程援助技術) 看護教育学 卒業研究

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 准教授	八田 武俊 (43) <平成30年4月>	心理学 情報処理	
兼任 准教授	三嶋 智之 (41) <平成30年4月>	基礎生物学 食生活論 生化学 統合看護演習	
兼任 講師	高 森 坤 (46) <平成30年4月>	鍼灸・漢方セミナー	
兼任 講師	赤堀 克己 (53) <平成30年4月>	基礎数学	
兼任 講師	南 武志 (44) <平成30年4月>	医療データ分析論	
兼任 助教	柳田 直子 (37) <平成30年4月>	基礎英語 英会話Ⅰ(初級) 英会話Ⅱ(中級)	
兼任 助教	安田 悠子 (27) <平成30年4月>	カウンセリング技法 発達心理学 医療心理学	
兼任 准教授	西出 裕子 (57) <平成30年4月>	チーム医療演習	
兼任 助教	杉浦 明弘 (37) <平成30年4月>	チーム医療演習	
兼任 講師	菅原 大喜子 (45) <平成30年4月>	哲学 倫理学 生命倫理学 看護倫理	
兼任 講師	青木 京子 (60) <平成30年4月>	医療安全管理学	
兼任 講師	アンドリュウ ヒツシグ (54) <平成30年4月>	英会話Ⅰ(初級)	
兼任 講師	池戸 亜紀 (42) <平成30年4月>	公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)	
兼任 講師	石山 光枝 (63) <平成30年4月>	看護管理学	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 准教授	八田 武俊 (43) <平成30年4月>	心理学 情報処理	
兼任 准教授	三嶋 智之 (41) <平成30年4月>	基礎生物学 食生活論 統合看護演習	
兼任 講師	高 森 坤 (46) <平成30年4月>	鍼灸・漢方セミナー	
兼任 准教授	赤堀 克己 (53) <平成30年4月>	基礎数学	
兼任 講師	南 武志 (44) <平成30年4月>	医療データ分析論	
兼任 助教	柳田 直子 (37) <平成30年4月>	英会話Ⅱ(中級)	
兼任 助教	安田 悠子 (27) <平成30年4月>	カウンセリング技法 発達心理学 医療心理学	
兼任 准教授	西出 裕子 (57) <平成30年4月>	チーム医療演習	
兼任 講師	杉浦 明弘 (37) <平成30年4月>	チーム医療演習	
兼任 講師	菅原 大喜子 (45) <平成30年4月>	哲学 倫理学 生命倫理学 看護倫理	
兼任 講師	青木 京子 (60) <平成30年4月>	医療安全管理学	
兼任 講師	アンドリュウ ヒツシグ (54) <平成30年4月>	英会話Ⅰ(初級)	
兼任 講師	池戸 亜紀 (42) <平成30年4月>	公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)	
兼任 講師	石山 光枝 (63) <平成30年4月>	看護管理学	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 准教授	八田 武俊 (44) <平成30年4月>	心理学 情報処理	
兼任 准教授	三嶋 智之 (42) <平成30年4月>	食生活論 統合看護演習	
兼任 准教授	松吉ひろ子 (50) <平成30年4月>	チーム医療論 人体生理解剖学Ⅰ 人体生理解剖学Ⅱ 疾病・治療Ⅱ (成人・老年Ⅱ) チーム医療演習	
兼任 講師	高 森 坤 (47) <平成30年4月>	中国語 鍼灸・漢方セミナー	
兼任 准教授	赤堀 克己 (54) <平成30年4月>	基礎数学	
兼任 講師	南 武志 (45) <平成30年4月>	医療データ分析論	
兼任 助教	柳田 直子 (37) <平成30年4月>		
兼任 助教	安田 悠子 (28) <平成30年4月>	カウンセリング技法 発達心理学 医療心理学	
兼任 教授	西出 裕子 (59) <平成30年4月>	チーム医療演習	
兼任 講師	杉浦 明弘 (38) <平成30年4月>	チーム医療演習	
兼任 講師	菅原 大喜子 (46) <平成30年4月>	哲学 倫理学 生命倫理学 看護倫理	
兼任 講師	中山麻美 (43) <平成31年4月>	基礎英語 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英会話Ⅰ(初級) 英会話Ⅱ(中級)	
兼任 講師	瀧武 遼子 (81) <平成31年4月>	健康科学概論 環境科学概論	
兼任 講師	松井 敬聡 (48) <平成31年4月>	基礎生物学 人類遺伝・発生学	
兼任 講師	高代 大智 (41) <平成31年4月>	基礎化学	
兼任 講師	青木 京子 (61) <平成30年4月>	医療安全管理学	
兼任 講師	アンドリュウ ヒツシグ (54) <平成30年4月>	英会話Ⅰ(初級)	
兼任 講師	池戸 亜紀 (43) <平成30年4月>	公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)	
兼任 講師	石山 光枝 (64) <平成30年4月>	看護管理学	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 准教授	八田 武俊 (45) <平成30年4月>	心理学 情報処理	
兼任 准教授	三嶋 智之 (43) <平成30年4月>	統合看護演習	
兼任 准教授	松吉ひろ子 (52) <平成30年4月>	人体生理解剖学Ⅰ 人体生理解剖学Ⅱ 疾病・治療Ⅱ (成人・老年Ⅱ) チーム医療演習	
兼任 准教授	高 森 坤 (48) <平成30年4月>	中国語 鍼灸・漢方セミナー	
兼任 准教授	赤堀 克己 (55) <平成30年4月>	基礎数学	
兼任 講師	南 武志 (46) <平成30年4月>	医療データ分析論	
兼任 講師	中川 泰久 (46) <令和2年4月>	医療データ分析論	
兼任 助教	安田 悠子 (30) <平成30年4月>	カウンセリング技法 発達心理学 医療心理学	
兼任 教授	西出 裕子 (60) <平成30年4月>	チーム医療演習	
兼任 講師	杉浦 明弘 (39) <平成30年4月>	チーム医療演習	
兼任 講師	菅原 大喜子 (47) <平成30年4月>	哲学 倫理学 生命倫理学 看護倫理	
兼任 講師	中山麻美 (44) <平成31年4月>	基礎英語 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英会話Ⅰ(初級) 英会話Ⅱ(中級)	
兼任 准教授	瀧武 遼子 (82) <平成31年4月>	健康科学概論 環境科学概論	
兼任 准教授	松井 敬聡 (49) <平成31年4月>	基礎生物学 人類遺伝・発生学	
兼任 講師	青木 京子 (62) <平成30年4月>	看護管理学	
兼任 講師	アンドリュウ ヒツシグ (54) <平成30年4月>	英会話Ⅰ(初級)	
兼任 講師	池戸 亜紀 (44) <平成30年4月>	公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 准教授	八田 武俊 (46) <平成30年4月>	心理学 情報処理	
兼任 講師	高 森 坤 (49) <平成30年4月>	中国語 鍼灸・漢方セミナー	
兼任 准教授	赤堀 克己 (56) <平成30年4月>	基礎数学	
兼任 講師	南 武志 (47) <平成30年4月>	医療データ分析論	
兼任 講師	中川 泰久 (47) <令和2年4月>	医療データ分析論	
兼任 助教	西出 裕子 (60) <平成30年4月>	チーム医療演習	
兼任 講師	中山麻美 (45) <平成31年4月>	基礎英語 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英会話Ⅰ(初級) 英会話Ⅱ(中級)	
兼任 准教授	瀧武 遼子 (82) <平成31年4月>	健康科学概論 環境科学概論	
兼任 准教授	松井 敬聡 (47) <平成31年4月>	基礎生物学 人類遺伝・発生学	
兼任 准教授	小畑 幸二 (49) <平成3年4月>	人体生理解剖学Ⅰ 人体生理解剖学Ⅱ	
兼任 講師	所 優志 (40) <平成3年4月>	微生物学	
兼任 教授	新 博美 (66) <平成3年4月>	疾病・治療Ⅱ (成人・老年Ⅱ)	
兼任 講師	青木 京子 (62) <平成30年4月>	看護管理学	
兼任 講師	アンドリュウ ヒツシグ (54) <平成30年4月>	英会話Ⅰ(初級)	
兼任 講師	池戸 亜紀 (45) <平成30年4月>	公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)	

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担任授業科目名
兼任 講師		榊村 尚弘 (42) <平成30年4月>	ドイツ語
兼任 講師		大島 健次郎 (69) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅰ (成人・老年Ⅰ)
兼任 講師		井上 眞人 (57) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅲ (精神)
兼任 講師		榎本 哲 (73) <平成30年4月>	法学
兼任 講師		臼井 潤一郎 (45) <平成30年4月>	保健医療福祉制度論Ⅰ
兼任 講師		王 莉莎 (56) <平成30年4月>	中国語
兼任 講師		大野 勝弘 (73) <平成30年4月>	環境科学概論
兼任 講師		大野 秀夫 (69) <平成30年4月>	医学概論
兼任 講師		岡本 祥成 (70) <平成30年4月>	健康科学概論 保健医療福祉制度論Ⅱ 公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)
兼任 講師		岡本 秀範 (67) <平成30年4月>	英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任 講師		萩田 誠一 (72) <平成30年4月>	経済学
兼任 講師		加藤 明美 (58) <平成30年4月>	家族援助論
兼任 講師		川鐘 市郎 (62) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅳ (母性)
兼任 講師		河村 昌子 (44) <平成30年4月>	家族援助論
兼任 講師		北村 隆幸 (37) <平成30年4月>	ボランティア技法
兼任 講師		後藤 真理 (52) <平成30年4月>	ポルトガル語
兼任 講師		佐藤 和良 (74) <平成30年4月>	基礎化学
兼任 講師		澤井 美穂 (46) <平成30年4月>	ターミナルケア論
兼任 講師		沢田 美代子 (76) <平成30年4月>	公衆衛生看護活動論Ⅲ (学校保健)
兼任 講師		後崎 恵美子 (53) <平成30年4月>	フィジカルアセスメント論
兼任 講師		染川 智勇 (51) <平成30年4月>	手話技法
兼任 講師		高田 幹夫 (44) <平成30年4月>	公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)
兼任 講師		森 敏幸 (67) <平成30年4月>	精神看護学概論 精神看護学方法
兼任 講師		趙 賢美 (44) <平成30年4月>	韓国語

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担任授業科目名
兼任 講師		榊村 尚弘 (43) <平成30年4月>	ドイツ語
兼任 講師		大島 健次郎 (69) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅰ (成人・老年Ⅰ)
兼任 講師		井上 眞人 (57) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅲ (精神)
兼任 講師		榎本 哲 (73) <平成30年4月>	法学
兼任 講師		臼井 潤一郎 (45) <平成30年4月>	保健医療福祉制度論Ⅰ
兼任 講師		王 莉莎 (56) <平成30年4月>	中国語
兼任 講師		大野 秀夫 (70) <平成30年4月>	医学概論
兼任 講師		岡本 祥成 (70) <平成30年4月>	健康科学概論 保健医療福祉制度論Ⅱ 公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)
兼任 講師		岡本 秀範 (67) <平成30年4月>	基礎英語 英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任 講師		加藤 明美 (70) <平成30年4月>	経済学
兼任 講師		加藤 明美 (48) <平成30年4月>	家族援助論
兼任 講師		川鐘 市郎 (62) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅳ (母性)
兼任 講師		河村 昌子 (44) <平成30年4月>	家族援助論
兼任 講師		北村 隆幸 (37) <平成30年4月>	ボランティア技法
兼任 講師		後藤 真理 (52) <平成30年4月>	ポルトガル語
兼任 講師		澤井 美穂 (46) <平成30年4月>	ターミナルケア論
兼任 講師		沢田 美代子 (76) <平成30年4月>	公衆衛生看護活動論Ⅲ (学校保健)
兼任 講師		後崎 恵美子 (54) <平成30年4月>	フィジカルアセスメント論
兼任 講師		染川 智勇 (51) <平成30年4月>	手話技法
兼任 講師		高田 幹夫 (44) <平成30年4月>	公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)
兼任 講師		森 敏幸 (67) <平成30年4月>	精神看護学概論 精神看護学方法
兼任 講師		趙 賢美 (44) <平成30年4月>	韓国語

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担任授業科目名
兼任 講師		榊村 尚弘 (44) <平成30年4月>	ドイツ語
兼任 講師		大島 健次郎 (70) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅰ (成人・老年Ⅰ)
兼任 講師		井上 眞人 (58) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅲ (精神)
兼任 講師		臼井 潤一郎 (46) <平成30年4月>	保健医療福祉制度論Ⅰ
兼任 講師		大野 秀夫 (71) <平成30年4月>	医学概論
兼任 講師		岡本 祥成 (71) <平成30年4月>	健康科学概論 保健医療福祉制度論Ⅱ 公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)
兼任 講師		加藤 明美 (49) <平成30年4月>	家族援助論
兼任 講師		川鐘 市郎 (63) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅳ (母性)
兼任 講師		北村 隆幸 (38) <平成30年4月>	ボランティア技法
兼任 講師		後藤 真理 (53) <平成30年4月>	ポルトガル語
兼任 講師		澤井 美穂 (47) <平成30年4月>	ターミナルケア論
兼任 講師		沢田 美代子 (77) <平成30年4月>	公衆衛生看護活動論Ⅲ (学校保健)
兼任 講師		後崎 恵美子 (55) <平成30年4月>	フィジカルアセスメント論
兼任 講師		染川 智勇 (52) <平成30年4月>	手話技法
兼任 講師		高田 幹夫 (45) <平成30年4月>	公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)
兼任 講師		森 敏幸 (68) <平成30年4月>	精神看護学概論 精神看護学方法
兼任 講師		趙 賢美 (45) <平成30年4月>	韓国語

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担任授業科目名
兼任 講師		榊村 尚弘 (45) <平成30年4月>	ドイツ語
兼任 講師		大島 健次郎 (71) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅰ (成人・老年Ⅰ)
兼任 講師		井上 眞人 (59) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅲ (精神)
兼任 講師		臼井 潤一郎 (47) <平成30年4月>	保健医療福祉制度論Ⅰ
兼任 講師		岡本 祥成 (72) <平成30年4月>	健康科学概論 保健医療福祉制度論Ⅱ 公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)
兼任 講師		加藤 明美 (50) <平成30年4月>	家族援助論
兼任 講師		川鐘 市郎 (64) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅳ (母性)
兼任 講師		北村 隆幸 (39) <平成30年4月>	ボランティア技法
兼任 講師		後藤 真理 (54) <平成30年4月>	ポルトガル語
兼任 講師		澤井 美穂 (48) <平成30年4月>	ターミナルケア論
兼任 講師		後崎 恵美子 (56) <平成30年4月>	フィジカルアセスメント論
兼任 講師		染川 智勇 (53) <平成30年4月>	手話技法
兼任 講師		高田 幹夫 (46) <平成30年4月>	公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)
兼任 講師		森 敏幸 (69) <平成30年4月>	精神看護学概論 精神看護学方法
兼任 講師		趙 賢美 (46) <平成30年4月>	韓国語

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担任授業科目名
兼任 講師		榊村 尚弘 (46) <平成30年4月>	ドイツ語
兼任 講師		井上 眞人 (60) <平成30年4月>	疾病・治療Ⅲ (精神)
兼任 講師		臼井 潤一郎 (48) <平成30年4月>	保健医療福祉制度論Ⅰ
兼任 講師		岡本 祥成 (73) <平成30年4月>	健康科学概論 保健医療福祉制度論Ⅱ 公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業保健)
兼任 講師		加藤 明美 (51) <平成30年4月>	家族援助論
兼任 講師		北村 隆幸 (40) <平成30年4月>	ボランティア技法
兼任 講師		後藤 真理 (55) <平成30年4月>	ポルトガル語
兼任 講師		澤井 美穂 (49) <平成30年4月>	ターミナルケア論
兼任 講師		後崎 恵美子 (57) <平成30年4月>	フィジカルアセスメント論
兼任 講師		染川 智勇 (54) <平成30年4月>	手話技法
兼任 講師		森 敏幸 (70) <平成30年4月>	精神看護学概論 精神看護学方法
兼任 講師		趙 賢美 (47) <平成30年4月>	韓国語

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	萩原 聡夫 (47) <平成31年4月>	法学
兼任	講師	代田 知之 (28) <平成31年4月>	経済学
兼任	講師	富田 福代 (65) <平成31年4月>	教育学
兼任	講師	正司 孝太郎 (41) <平成31年4月>	カウンセリング技法 発達心理学 医療心理学
兼任	講師	大島 昌子 (46) <平成31年4月>	家族援助論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	萩原 聡夫 (48) <平成31年4月>	法学
兼任	講師	代田 知之 (30) <平成31年4月>	経済学
兼任	講師	大島 昌子 (47) <平成31年4月>	家族援助論
兼任	講師	杉山 実加 (31) <令和2年4月>	教育学
兼任	講師	ボイズ ニコラス (37) <令和2年4月>	英語Ⅱ
兼任	講師	ポール デイッキンソン (54) <令和2年4月>	英会話Ⅰ(初級) 英会話Ⅱ(中級)
兼任	講師	長谷川 謙一 (60) <令和2年4月>	疾病・治療論Ⅶ(小児)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	萩原 聡夫 (49) <平成31年4月>	法学
兼任	講師	代田 知之 (31) <平成31年4月>	経済学
兼任	講師	正司 孝太郎 (43) <平成31年4月>	カウンセリング技法 発達心理学 医療心理学
兼任	講師	大島 昌子 (48) <平成31年4月>	家族援助論
兼任	講師	杉山 実加 (32) <令和2年4月>	教育学
兼任	講師	ボイズ ニコラス (38) <令和2年4月>	英語Ⅱ
兼任	講師	ポール デイッキンソン (55) <令和2年4月>	英会話Ⅰ(初級) 英会話Ⅱ(中級)
兼任	講師	長谷川 謙一 (61) <令和2年4月>	疾病・治療論Ⅶ(小児)
兼任	講師	真鍋 順久 (52) <令和3年4月>	社会福祉学
兼任	講師	佐多 和仁 (xx) <令和3年4月>	疾病・治療論Ⅱ(成人・老年Ⅱ)
兼任	講師	岩砂 智丈 (47) <令和3年4月>	疾病・治療論Ⅳ(母性)
兼任	講師	安田 響子 (65) <令和3年4月>	疾病・治療論Ⅳ(母性)
兼任	講師	高山 和人 (69) <令和3年4月>	感染看護論
兼任	講師	伊藤 慈子 (68) <令和3年4月>	看護管理

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任・兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。

・ その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**

・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。

・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。

・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、実(実)、実(実))、兼任・兼担の順に記入してください。

・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・平成30年4月山本教授就任。
- ・平成30年4月永田助教就任。

【令和元年度】

- ・平成31年3月藤井教授辞任。
- ・平成31年3月川上講師辞任。
- ・平成31年3月小平講師辞任。
- ・平成31年3月田島助教辞任。
- ・令和元年4月藤田教授就任。
- ・令和元年4月小西講師就任。
- ・令和元年4月佐野講師就任。
- ・令和元年4月和田助教就任。

【令和2年度】

- ・令和2年3月鍵小野准教授辞任。
- ・令和2年3月箕浦講師辞任。
- ・令和2年4月若林助教就任。
- ・令和2年4月杉江助教就任。

【令和3年度】

- ・令和3年3月山本教授辞任
- ・令和3年4月後藤講師就任

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
9	3	10	8	30	5	10	5	10	9	34	4
(10)	(3)	(10)	(9)	(32)	(3)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
10	5	10	9	34	4	10	5	10	9	34	4
[+1]	[+2]	[±0]	[+1]	[+4]	[△1]	[+1]	[+2]	[±0]	[+1]	[+4]	[△1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：65歳 教授以外：62歳	3	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{34}{30} = \boxed{113.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{34} = \boxed{8.82} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{4}{5} = \boxed{80} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	藤井洋子	H31.3	必修	基礎セミナー	①	H31.3.31付け一身上の都合の理由により退職（元）
				必修	看護学概論Ⅰ	①	
				必修	看護学概論Ⅱ	①	
				必修	基礎看護学方法Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学方法Ⅲ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				選択	看護教育学	①	
				必修	統合看護演習	①	
必修	卒業研究	①					
2	講師	川上祐子	H31.3	必修	基礎セミナー	①	H31.3.31付け一身上の都合の理由により退職（元）
				選択	トリートメントケアセミナー	①	
				必修	在宅看護論	①	
				必修	在宅看護方法	①	
				必修	在宅看護実習	①	
				必修	統合看護実習	①	
必修	卒業研究	①					
3	講師	小平由美子	H31.3	必修	基礎セミナー	①	H31.3.31付け一身上の都合の理由により退職（元）
				必修	小児看護学方法	①	
				必修	小児看護学実習	①	
				必修	統合看護実習	①	
必修	卒業研究	①					

4	助教	田島愛	H31.3	必修	基礎セミナー	①	H31.3.31付け一身上の都合の理由により退職(元)		
				選択	公衆衛生看護活動論Ⅰ	①			
				選択	公衆衛生看護方法論Ⅰ	①			
				選択	公衆衛生看護診断演習	①			
				選択	公衆衛生看護学実習Ⅰ	①			
				選択	公衆衛生看護学実習Ⅱ	①			
				必修	卒業研究	①			
5	准教授	鍵小野美和	R2.3	必修	アカデミック技法	①	R2.3.31付け一身上の都合の理由により退職(2)		
				必修	小児看護学概論	①			
				必修	小児看護学方法	①			
				必修	小児看護学実習	①			
				必修	統合看護演習	①			
				必修	統合看護実習	①			
				必修	卒業研究	①			
6	講師	箕浦文枝	R2.3	必修	基礎看護学方法Ⅰ (共通基本技術)	①	R2.3.31付け一身上の都合の理由により退職(2)		
				必修	基礎看護学方法Ⅱ (日常生活援助技術)	①			
				必修	基礎看護学方法Ⅲ (看護過程展開技術)	①			
				必修	基礎看護学方法Ⅳ (診断・治療に伴う援助技術)	①			
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①			
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①			
				必修	卒業研究	①			
7	教授	山本 洋子	R3.3	必修	看護学概論Ⅰ	①	R3.3.31付け一身上の都合の理由により退職(3)		
				必修	看護学概論Ⅱ	①			
				必修	基礎看護学方法Ⅰ (共通基本技術)	①			
				必修	基礎看護学方法Ⅱ (日常生活援助技術)	①			
				必修	基礎看護学方法Ⅲ (看護過程展開技術)	①			
				必修	基礎看護学方法Ⅳ (疾病・治療に伴う援助技術)	①			
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①			
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①			
				必修	統合看護演習	①			
必修	卒業研究	①							
合計(F)				後任補充状況の集計(G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
7	人	必修	53 科目	必修	53 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	53 科目	計	53 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
7 人	必修	53 科目	必修	53 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	53 科目	計	53 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{7}{30} = \boxed{23.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし	必修						
			選択						
			必修						
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

令和3年度は、1名の教員辞任があったが、担当授業科目の見直しにより辞任教員の授業科目は全て専任教員が担当していて、教育体制については全く問題はない。学生への周知については、WEBシラバスシステムを導入していて全ての学生に行っている。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	中日本自動車短期大学 モータースポーツエンジニアリング学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	留意事項 平成30年度より入学定員を40名から30名に引き下げた。また、それに合わせ、定員確保のため、モータースポーツの取り組み内容、自動車メーカーの開発職やレース関連企業への就職実績などの特徴をきめ細かく広報した。この結果、平成30年度の入学生数は35名となって、平均入学定員超過率は0.83となった。(平成30年度)	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
1学期の授業期間 15週 (2)	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、前期の講義開始日を4月10日から4月22日以降に変更した。これにより前期の授業期間を15週から13週に変更したが、一部リモート講義を実施することで講義回数に変更せず、シラバスどおりに実施する予定。(2)

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教授会の下部組織として、薬学部、看護学部、保健科学部合同による全学のFD・SD委員会を設置して、FD・SD活動に関する推進事項を審議し、実行している。

b 委員会の開催状況 (教員の参加状況含む)

委員会委員は、看護学部より2名、薬学部より2名、保健科学部各学科より2名ずつ4名、事務より3名の11名で構成している。委員会は、委員全員の参加のもと、年4回程度開催している。

c 委員会の審議事項等

本学の次の事項を審議する。

- 1) FD・SD推進のための企画及び実施に関すること。
- 2) FD・SDに関する報告書等の作成に関すること。
- 3) その他のFD・SDの推進に関すること。

② 実施状況

a 実施内容

令和2年度は下記の内容を実施した。令和3年度については、新型コロナウイルス感染の動向等を勘案しながら研修会等の同様な内容を計画すると共に、授業改善及び発達障害やLGBT等学生の多様化に対応した取組みを強化する計画である。

- ①教職員FD・SD研修会(年2回)
- ②授業評価アンケート
- ③授業評価アンケート結果に基づく各教員のリフレクション(内省)の実施

b 実施方法

- ①教職員FD・SD研修会
全教職員を対象として2時間程度の研修会を年2回実施する。
- ②FDセミナーへの参加
オンライン聴講可能なセミナーを選定し、新任教員から希望者を募り派遣する。参加後は、報告会を行う。
- ③授業評価アンケート
前期・後期の2回、ポータルサイトを通じて実施する。
- ④教員相互の授業参観
オンライン授業等の状況を勘案しながら、主に新任教員を対象にして実施する。
- ⑤授業評価アンケート結果に基づく各教員のリフレクション(内省)の実施
事務局から各教員に対し、様式により授業状況等の説明と自己評価を依頼して提出させる。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

- ①教職員FD・SD研修会(年2回)
令和2年度は、12/25と3/16の2回、研修会を下記のとおり実施し、ほぼ全教職員が参加した。
 - ・令和2年12月25日「遠隔授業による学生の学びの変化と今後の対応」
本学保健科学部放射線技術学科教授 吉田貴博氏
「新型コロナウイルス感染症とその対策」
本学薬学部薬学科教授 杉山剛志氏
「コロナ後の社会」
元 経済産業省 商務・サービスグループ 政策統括調整官 他 江崎禎英氏
 - ・令和3年 3月16日「学校法人神野学園の現状と課題」
理事長 山田弘幸氏
「ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 第3回人材育成プログラム」参加報告
本学薬学部薬学科教授 伊藤哲朗氏
「ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 第4回人材育成プログラム」参加報告
本学放射線技術学科准教授 井堀亜希子氏
- ②授業評価アンケート
ポータルサイト上で令和2年度は前期は7～8月、後期は1～2月に入力期間を設け実施した。
- ③授業評価アンケート結果に基づく各教員のリフレクション(内省)の実施
「授業方法の工夫」「学生への配慮」「学生授業アンケートの対応」の3項目について、各教員が記載し提出した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

①教職員FD・SD研修会(年2回)

令和2年度は新型コロナウイルスに関連して、遠隔授業の効果、医療系大学教職員としてのコロナウイルス知識、コロナ後の社会等を学び教育活動に役立てた。今年度も、教職員共に活用できるテーマを選定し実施して、教育改善に役立てていく。

②人材育成プログラムへの参加と報告

従来、山形大学主催FDセミナー、コンソーシアム京都主催FDセミナーに教員を参加させていたが、中止或いはオンラインとなったことから中止し、令和2年度は、地元のネットワーク大学コンソーシアム岐阜主催のFDセミナーをオンラインで聴講し、報告会を行って教職員と情報共有した。本年度も同様に、オンライン聴講可能なセミナーを受講させ報告会で教職員に共有する。

③授業評価アンケート及びそれに基づく各教員のリフレクション(内省)の実施

「授業方法の工夫」「学生への配慮」「学生授業アンケートの対応」の観点から、授業評価アンケート結果を参考にしながら各教員が自己評価を行い授業改善点を明確にして、改善に努めている。更に所属長も交え、結果を有効活用するよう計画する。

④教員相互の授業参観

参観後は、所定のアンケート用紙に記載して提出させ、授業担当教員にその結果をフィードバックしている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

令和2年度実施日

- ・前期授業対象のアンケート入力期間:令和2年7月～8月
 - ・後期授業対象のアンケート入力期間:令和3年1月～2月
- なお、本年度も同時期に実施する計画である。

b 教員や学生への公開状況、方法等

○教員への公開

- ・担当科目についてポータルサイトにより常時公開している。

○学生への公開

- ・公開期間を決めポータルサイトにおいて公開している。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

該当なし

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本看護学部は、超高齢社会や地域保健医療に貢献する高度な看護師・保健師を育成するため、より一層の看護教育の高度化への対応や、より利便性の高い可児キャンパスへの移転も考慮して、現在の保健科学部から独立して設置した。これに際し、設置の趣旨に記載したとおり、教育体制、教育内容は基本的に現行体制・内容を継続して実施しているが、看護学部となったことから、平成30年度より新たに看護学部長、看護学科長を選任して教育体制を強化し、令和2～3年度もこれを継続する。教育内容について、令和3年度は現行内容を継続するが、令和2年10月に「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」及び「看護師等養成所運営に関するガイドライン」が改正され、令和4年度より教育課程の一部の改正が必要となった。このため、アフターケア期間終了後の令和4年度実施を目指して、見直しを行っている。また実習体制についても、随時、指定規則に係る実習施設の変更承認申請の手続きを経て実習機関の増強を行うと共に、他学科との調整が行えるよう、各学科教員及び事務職員から委員を選任して全学的な「臨地(臨床)実習委員会」を平成30年度より設置し活動を行っている。

施設・設備については、当初の計画どおり新校舎の改装工事、設備設置工事及び移転を行って令和元年度より可児キャンパスに移設した。図書についても、令和3年度に関キャンパス在校生がいなくなることから、令和2年度中に全ての移設を完了した。

このように教育体制、施設設備の充実に努めてきたことから、本看護学部の受験者数は令和3年度に763名であり、平成30年度の開設以来、最高となる中、入学生数も103名と定員100名を確保することができた。更に、令和2年度の看護師及び保健師の国家試験合格率はそれぞれ100%である他、本学部開設以降の3年間において退学者は1名だけである。なお、新型コロナウイルス対策としては、対面と遠隔授業を組み合わせ、シラバス通り実施する予定となっている。

これらのとおり、設置の趣旨・目的については十分に達成している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成30年度報告書：公表済
- ・令和元年度報告書：公表済
- ・令和元年度外部評価報告書：公表済
- ・令和2年度報告書：令和3年10月公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定（令和3年10月予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

- ・平成30年10月に評価機関（財）日本高等教育評価機構の評価を受審し適合の判定を受けた。
次回は令和7年度に受審の予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

岐阜医療科学大学 FD・SD委員会規程

(目的)

第1条 ファカルティ・ディベロップメント(本学における教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動をいう。以下「FD」という。)及びスタッフ・ディベロップメント(本学における教育・研究活動へのサービスの質的向上と大学運営の活性化を図るために組織的に取り組む活動をいう。以下「SD」という。)を推進するため、FD・SD委員会(以下「委員会」という。)を設ける。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 委員長 1名
- 二 副委員長 1名
- 三 委員 若干名

(選出)

第3条 委員会の委員長、副委員長及び委員は教授会の議を経て学長が任命する。

(委員長等の職務)

第4条 委員長は、委員会を主宰し、その運営にあたる。

2 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるときはその職務を代行する。

(任期)

第5条 委員長、副委員長及び委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(審議事項)

第6条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 FD・SD推進のための企画及び実施に関すること
- 二 FD・SDに関する報告書等の作成に関すること
- 三 その他FD・SDの推進に関すること

(重要事項の取扱い)

第7条 委員会で審議された事項のうち重要な内容は教授会に諮るものとする。

(事務)

第8条 委員会の事務は委員会で所掌するものとする。

附 則

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 この改正規程は、平成19年4月1日から施行する。